



この民家は、七年前の筑波学園都市建設予定地周辺の民俗調査の際、谷田郡で見たものである。百二十年程前に建てられたもの。このような凹凸のない家の形式を、直家（スゴヤ）という。屋根は茅葺きの寄棟で棟の中央に煙出しがある。土浦近辺の民家は、一般に質の高いものが多い。特徴のひとつに、軒先の飾り葺きがある。これは、色の異なる茅を数段に重ねて葺くもので、その段の多いほど家柄の高さを示すのだという。市松模様にしたものもあり、屋根職人の腕の見せ所でもある。民家が最もその美しさを見せるのは茅を葺き替えたばかりの時である。古い家を維持する苦勞はたいへんなものだが茅葺根の寿命は三十年位だから当主にとっても一生に一度の大仕事であり、その時こそ、古い家に住む誇りを示すのである。もうひとつの見所は、大戸口から土間に入って、見上げる梁組の力強さである。それは、お城の豪社さに直結するものだ。この周辺の農村の変貌は著しい。七年前の写真を眺めながら、こうした民家のいくつが残っているものやら、気掛りなことである。